

出エジプト記 12：11～14

コリントの信徒への手紙一 11：23～26

「パンとブドウ酒、体と血」

(ハイデルベルク信仰問答 問 78～80) ※問答は「日々の祈り」をご覧ください。

【招詞】申命記 6：4～5

【詩編交読】詩編 6 編

【赦しの宣言】イザヤ書 55：7「主に立ち帰るならば、主は憐れんでくださる。

わたしたちの神に立ち帰るならば／豊かに赦してくださる。」

【讃美歌】 2 「聖なるみ神は」

【祈祷】

【聖書】出エジプト記 12：11～14、コリントの信徒への手紙一 11：23～26

【説教】

<聖餐の恵み>

教会では、聖書の解き明かしの説教を、「聞く神の言葉」。聖礼典、つまり洗礼と聖餐を、「見える神の言葉」、と言ったりします。説教と聖礼典は、聞くことと、見ることを通して、神さまがわたしたちに救いの恵みを与えて下さる手段です。

今『ハイデルベルク信仰問答』では、聖礼典の一つである「聖餐」についての問答が続いています。特に今日の問 78～80 は、宗教改革の時に起こった聖餐にまつわる論争に関することや、ローマ・カトリック教会のミサの教えに対する指摘が語られています。

そこには、それぞれ複雑な議論があるのですが、今日は、わたしたちの教会が受け継いでいる「改革派」の伝統において理解されている聖餐の恵みについて、その理解を改めて深めていきたいと思います。

また、ちょうど今日は礼拝で、説教の後に、聖餐が行われます。聖書の御言葉を通して、聖餐の恵みについて聞いた後、実際に、この目で見て、触れて、味わう聖餐に与ることが出来るのです。今日は、この聖餐の恵みを、ご一緒に深く味わいたいと思います。

<聖餐制定>

さて、まず今日読まれたコリントの信徒への手紙の箇所は、聖餐における、非常に重要な御言葉です。みなさんも、聞き覚えがあったと思います。これは、聖餐が行われる時に、必ず読まれる聖書箇所です。

聖餐は、人が考え出したものではありません。また、人が集まってなされる普通の食事会でもありません。

聖餐は、神さまが、恵みを与える手段として、わたしたちのために定め、備えて下さったものです。ですから、教会で聖餐が行われる根拠は、聖書にあります。

もっと具体的に言えば、わたしたちの救い主である、イエスさま御自身が定めて下さった、ということこそ、聖餐が行われる根拠です。

ですから、わたしたちはまず、その御言葉を聞くことから、聖餐の食卓を始めるのです。

コリントの信徒への手紙は、パウロという伝道者が教会に宛てた手紙ですが、その中で、パウロはまず、このように語っています。11：23 以下です。「わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、『これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。」

ここに、「主イエスは、引き渡される夜、」とあります。聖餐は、イエスさまが、引き渡される夜。つまり、ユダの裏切りによって引き渡され、捕らえられ、裁判にかけられ、十字架につけられる。まさにその直前に、十二人の弟子たちと共にされた「過越しの食事」が起源です。

そして、これは、イエスさまにとって、十字架で死なれる前の、最後の食事になりました。ですから、「最後の晩餐」とも呼ばれています。

コリントの信徒への手紙を書いたパウロは、十二弟子ではありませんので、もちろん直接この場面にはおりませんでした。でもパウロは、「わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。」と語っています。

それは、イエスさまが、この最後の晩餐で弟子たちに命じられたことを、弟子たちが後に続く弟子たち、教会に、忠実に伝え、聖餐を守ってきた。それをパウロ自身もまた、忠実に受け継ぎ、イエスさまのご命令に従って、コリントの教会に伝えている、ということです。

そうして、教会は代々、この最後の晩餐におけるイエスさまのご命令に従って、聖餐の食卓を守り続けてきました。ですから、わたしたちの教会もまた、聖餐を、「わたし自身、主から受けたもの」として受け取り、行い、そしてまた、伝えていくのです。

#### <十字架の死を告げ知らせる食卓>

さて、イエスさまは、「引き渡される夜」、十二人の弟子たちと共に、過越しの食事をなさいました。今日のところには、その席でこう言われたとあります。『これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、『この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。」

イエスさまは、引き渡される夜に、これからご自分がなされることを指し示して、この聖餐の食卓を定められました。

つまり聖餐は、イエスさまが、わたしたちの罪のために引き渡され、わたしたちの罪を贖うために、十字架で肉を裂かれ、血を流して、罪の贖いを成し遂げられる、その十字架の死を指し示す、食卓なのです。

イエスさまは、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、言われました。「これは、あなたがたのためのわたしの体である。」だから、わたしたちは、聖餐において、パンを分かち、これを、わたしのために裂かれた、イエスさまの体としていただきます。

また、杯も同じようにして、イエスさまは「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である」と言われました。ですから、わたしたちは、杯を、わたしのために流された、イエスさまの血としていただきます。

この食卓で、わたしたちは、このわたしを罪から救うために十字架で死なれた、イエスさまの体と血を覚えます。そして、パンと杯を飲み食いすると共に、実際に、イエスさまの体と血を、この身で食べ飲みして、その恵みを自分のものとして、確かに受け取るのです。

#### <パンが体、ブドウ酒が血>

でも、パンが、イエスさまの体である。杯が、イエスさまの血である。パンと杯を飲み食いすることは、イエスさまの体と血を飲み食いすることである。これは、とてもグロテスクなことのよう聞こえます。ローマ帝国の時代には、教会の外の人々に、クリスチャンは人肉を食べている、と噂されていたこともあるそうです。

確かに、この聖餐で起こっていることを、どう説明するのか。それは教会にとって、とても難しい課題でした。それで、教会の歴史の中では、論争と共に色々な理解がなされました。

二つの極端な例をあげるなら、一つは、パンの実体が、イエスさまの体に変化するのだ、と考えられました。

パン、という物質の見た目は変わらないのですが、それは実体において、まことにイエスさまの肉になる、というのです。これは、とても哲学的で、高度な考え方です。

でも、パンの実体がイエスさまの体そのものになる、というのなら、パン自体がイエスさまの体そのものとして、取り扱われることになります。それは、偶像礼拝に陥ってしまうのではないかと。そういう非難がなされました。

一方、もう一つは、パンと杯はただの記念、ただの象徴だ、という考え方です。

物質はただ、十字架のイエスさまを思い起こすための、よすがに過ぎない。だから、そこにイエスさまの体はない、というのです。

でも、それはそれで、聖餐は、ただ十字架を思い起こすための形式に過ぎないのか、という疑問が起きました。そこに、イエスさま御自身はおられないのでしょうか。聖餐は、そんなに空っぽなものなのでしょうか。

…そのような議論の中で、わたしたちの教会の伝統である、「改革派」の教会は、このように聖餐のことを受け取りました。

まずイエスさまは、十字架に架かって、わたしたちの罪の贖いを成し遂げられた後、復活し、今は栄光の体をもって生きておられ、天におられる、ということを確認しました。

地上にいるわたしたちは、復活の体をもって天におられるイエスさまを、直接この目で見たり、この耳で声を聴いたり、この手で体に触れたりすることは出来ません。

しかし、聖餐においては、聖霊なる神さまのお働きによって、この地上のわたしたちの目に見える現実と、天の、目に見えない神さまの現実が、一つに結ばれます。

そして、天におられるイエスさまが、この聖餐の食卓にまことに臨在し、わたしたちと一つとなり、親しい交わりをもって下さるのです。

聖餐はまさに、そのように、聖霊によって、神さまが恵みを与えて下さる手段です。

パンは、そこで肉に変化はしません。でも、空っぽの記念でもありません。

聖餐において、パンは、天におられるイエスさまの体を指し示すものとして、わたしたちの前に差し出されます。パンを食べる時、同時にわたしたちは、天におられるイエスさまの体に、本当に与っているのです。

そのようにして、聖餐の食卓には、天におられるイエスさまが、まことに臨在しておられます。わたしたちが、パンに触れて、手に取って、食べて、そのパンがこの体を生かすがごとくに。天におられるイエスさまは、触れるほどにこの聖餐の食卓におられ、御自身をわたしに与えることによって、わたしと一つになり、わたしを生かして下さっているのです。

イエスさまは、聖餐において、わたしたちが見て、触れて、食べ飲みすることが出来る、この世の物質であるパンと杯を、備えて下さいました。

それは、わたしたちがこの肉体の目で見ることが出来ない、天におられるイエスさま御自身の体と血をあらわすための、目に見える「しるし」なのです。

見えないものを信じること、確信することが困難なわたしたちのために。イエスさまは、見えるものを通して、見えない現実が、見えるものと同じくらいに、確かにここにあることを、聖餐の食卓において、体験させて下さるのです。

イエスさまは示して下さいます。あなたがパンに触れているように、あなたはわたしに触れている。そのパンを食べて、あなたの体が生きるように、わたしの十字架で裂かれた体と血によって、あなたは生きている。パンが、あなたの体に吸収されて、あなたの一部となるように、十字架と復活を成し遂げたわたしのすべては、あなたのものである。あなたとわたしは、分ち難く結ばれて、一つとなっている。

この見えない恵みを、わたしたちは、パンと杯を通して、確かに受け取るのです。

洗礼を受けたわたしたちは、十字架と復活の救いの御業を成し遂げられ、天におられるイエスさまと、聖霊によって、一つに結ばれました。そして、イエスさまの十字架の死をいただいて罪を赦され、イエスさまの復活の命をいただいて神の子とされ、その恵みに養われ、生かされ、一人の救われた者としてここにいるのです。

聖餐は、繰り返し、その救いの恵みを現実のものとして覚えさせ、わたしたちに救いの確信を得させ続けるためのものです。

聖餐のパンと杯は、わたしたちが、確かにイエスさまの体と血に生かされている、ということの、神さまによる、目に見える確かな保証なのです。

ですから聖餐は、わたしたちが信仰者として歩んでいく上で、わたしたちをまことに生かし、養い、力づける、欠かすことの出来ない、霊的な食事なのです。

## <記念の食事>

さて、イエスさまは、この聖餐の食卓を「わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。

これまで見てきましたように、聖餐の食卓を「記念として行う」とは、単に過去のことを思い起こすことではありません。今の、現実の恵みとして、味わうことです。

この聖餐が制定されたのは、イエスさまと弟子たちの最後の晩餐の場面であり、それは「過越しの食事」であったと、最初に申し上げました。

過越しの食事とは、旧約聖書の時代に、イスラエルの民に定められた食事です。今日読まれた、出エジプト記のところに出てきました。もう一度お読みしてみます。(12:11~14)

「それを食べるときは、腰帯を締め、靴を履き、杖を手にし、急いで食べる。これが主の過越である。その夜、わたしはエジプトの国を巡り、人であれ、家畜であれ、エジプトの国のすべての初子を撃つ。また、エジプトのすべての神々に裁きを行う。わたしは主である。あなたたちのいる家に塗った血は、あなたたちのしるしとなる。血を見たならば、わたしはあなたたちを過ぎ越す。わたしがエジプトの国を撃つとき、滅ぼす者の災いはあなたたちに及ばない。この日は、あなたたちにとって記念すべき日となる。あなたたちは、この日を主の祭りとして祝い、代々にわたって守るべき不変の定めとして祝わねばならない。」

この出来事を覚える「過越し祭」は、神さまが、契約を結ばれたイスラエルの民を、エジプトの奴隷の家から救い出して下さった、その救いの恵みを「記念」するお祭りです。この記念の祭りの期間に、定められた「過越しの食事」をします。

この記念の食事も、単に「あの時に神さまが救ってくださったなあ」と、昔のことを思い出すためだけに、なされるものではありません。過越しの食事は、イスラエルの民が、今現在も、まさに、その神さまの恵みによって、救われて、生かされて、今ここにいるのだ、という恵みの現実を、確かにするためのものでした。

イエスさまの最後の晩餐は、まさに、「新しい過越しの食事」であると言えます。

イエスさまは、最後の晩餐となった、過越しの食事の時に、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である」と言われました。

イエスさまの聖餐の食卓は、神さまが、御子イエスさまによって打ち立てて下さる「新しい契約」を覚えるための、「新しい記念の食卓」となったのです。

旧約聖書の時代に、神さまがイスラエルの民と結ばれた契約は、イスラエルの民が、神さまに背き、逆らうことによって、一方的に破ってしまいました。

しかし、それでも神さまの方は、その契約を、誠実に守り通されました。アブラハムの子孫である、イスラエルの民を通して、地上のすべての民を祝福する。その約束を、神さまは、御子イエスさまにおいて、まことに実現して下さったのです。

神さまに遣わされた、御子イエスさまは、ご自分の十字架の血によって、神さまに背いた民の罪も、また地上のすべての人の罪も贖って下さり、すべての人間に、神さまとの和解の道を差し出して下さいました。

誰でも、イエスさまの十字架による罪の贖いにより頼むならば、神さまに対する罪を赦され、神さまと共に生きる永遠の命に与り、新しい神の民とされるのです。

イエスさまはご自分の血によって、そのような、「新しい契約」を立てて下さったのです。

イエスさまの血が、罪のための犠牲として屠られる小羊の血のように、完全な犠牲として、わたしたちの罪を贖います。イエスさまの血が、あの過越しの小羊の血のように、神さまが下される滅びの死から、わたしたちを免れさせます。

イエスさまの十字架の死に、わたしたちの罪の赦しも、永遠の命も、わたしたちの救いのすべてが、差し出されているのです。

そうして、わたしたちは、イエスさまの新しい契約によって、新しい神の民になるようにと、招かれたのです。

このイエスさまの十字架の死による救いにより頼み、洗礼を受け、すべての恵みをイエスさまから受け取ったわたしたちです。

そうして、新しい神の民とされたわたしたちは、このイエスさまの十字架の死を記念して、また、わたしたちの信仰を、まことに生かし、養い、強め、確かにする食事として、聖餐の食卓にあずかるのです。

その度にわたしたちは、天におられるイエスさまが、確かに共にいて下さり、確かに一つとなって下さり、確かにすべての恵みをわたしのものとして下さっていること。そして、わたし自身を、天におられるイエスさまが、ご自分のものとして下さっていることを、今ここで与えられている、確かな恵みの現実として、受け取ります。

イエスさま御自身を、確かにこの身に受け取ります。それは、パンを手にとって、触れて、この口で食べて、この体に吸収する如くに、確かなことなのです。

そうして、わたしたちの心は、イエスさまの御許に、天に、高く引き上げられます。

わたしたちは恵みを余すところなく受けて、賛美の声をあげ、神さまの栄光をたたえ、心からの礼拝をささげます。

イエスさまによって集められた神の民は、教会は、こうして恵みの食卓によって、生かされ、養われ、強められ、成長してゆくのです。

<主が来られるときまで>

この聖餐の食卓は、終わりの日まで、繰り返し行われます。

今日のコリントへの手紙の11:26には、「だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです」とありました。

教会において行われる、聖餐の食卓は、主が来られるときまで。つまり、世の終わりが来て、神さまのご支配が完成するその日まで、この神の民を、養い、守り、生かし続けます。

やがて、その来るべき日が来たなら、わたしたちはもはや、目に見えるしるしを必要としなくなるでしょう。終わりの日、わたしたちは、復活の栄光の体を与えられ、天におられる、復活なされたイエスさまに、この目でまみえ、この耳で御声を聞き、この手で御体に触れさせていただくことが出来るでしょう。

そして、まことに、天の主の食卓、天の祝宴の席に、着かせていただくのです。

わたしたちは、この終わりの日の、天にある確かな希望があるからこそ。この地上の歩みにあっても、目の前の苦しみや悲しみや悲惨な現実、支配されることなく。この目を閉ざされることなく。絶望することなく。ひたすらイエスさまを見上げて、神さまのご支配を見つめて、祈りつつ、忍耐しつつ、愛をもって歩む力が与えられてゆくのです。

わたしたちは、イエスさまの存在そのものと、そのすべての恵みに、信仰によって、御言葉と聖礼典によって与ります。イエスさまが、わたしたちを愛し抜いて、十字架によってご自分の体を裂き、血を流してまで与えて下さった、御自身の体と、その恵みです。

ですからわたしたちもまた、このわたしの存在、全身全霊で、すべての力と、思いと、心を尽くして、その恵みを受け取りたいと願うのです。

#### 【お祈り】

天の父なる神さま 御名をほめたたえます。

あなたは、わたしたちの罪を赦し、ご自分の民として招いて下さるために、御子イエスさまの十字架の血によって、新しい契約を与えて下さいました。

その新しい契約に与り、新しい神の民とされたわたしたちが、その恵みを確かにされるために。いつも、イエスさま御自身の体と与り、一つにされ、恵みを受け、その交わりの中で生かされていることを受け止めるために。聖餐が与えられていることを感謝いたします。

パンを食べ、杯を飲むごとに、天におられるイエスさまと一つにされ、その体と与り、生かされ、養われ、強められている、その恵みの現実を、いよいよ確かにして下さい。

また一人でも多くの者が、イエスさまの十字架による救いが、自分のためのものであると受け入れ、洗礼にあずかり、ともにこの恵みの食卓に着くことが出来ますように、聖霊によって導いてください。

このお祈りを、イエスさまの御名によってお祈りいたします。アーメン

【讚美歌】 78 「わが主よ、ここに集い」

【信仰告白】 ニカイア信条

【聖餐】

【讚美歌】 73 「主よ、平和のうちに」

【十戒】

【献金】 65-1 「今そなえる」

【主の祈り】

【祈祷】

【讚美歌】 29 「天のみ民も」

【祝福】 主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて あなたに平安を賜るように。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。アーメン